

始動 教育のまち

このほど、約60年ぶりに改正された教育基本法*に基づき、「御船町教育振興基本計画」（概要版）が作成されました。ここでは、同計画の位置づけや取り組みを紹介して、宮村のり子教育長が想い描く「教育のまち」の話を交えてお伝えします。



平成20年10月13日に初めて開催された「教育フォーラム」。町内の幼稚園（保育）園児から平成音楽大学生まで総勢203人が参加して、合同合唱を披露。各世代が音楽をとおした交流で一つに融合した。

「御船町教育振興基本計画」とは、教育基本法に示された教育理念の実現に向けて、町が今後5年間に目指すべき教育の姿を明らかにし、取り組み施策を総合的・計画的に推進するものです。そのために、3つの基本目標を掲げ、その目標実現のために方策を立て、具体的に取り組んでいきます。同計画の実施によって、地域に根ざし信頼される学校、家庭や地域を含めた町全体で教育の向上に取り組む、夢と希望のあふれる「教育の町みふね」の実現を目指します。そして、子育て環境づくりや家庭教育への支援など学校と家庭と地域が一体となった教育を推進します。

基本目標 1

子どもたちが
健やかに育つ
教育環境づくり

1 学園都市の実現

特色ある学校づくり、感性豊かな子どもが育つ町づくり、読書活動の推進、食育の推進を行います。

2 子どもの自立支援

礼儀やあいさつができる子どもの育成、基本的生活習慣が身に付いた子どもの育成、奉仕の精神と他者への思いやりの心が豊かな子どもの育成を行います。

*教育基本法

昭和22年に公布され、平成18年に改正。主な改正点は、地方公共団体（都道府県、市町村）が地域の実情に応じた「教育振興基本計画」の策定努力、家庭や幼児期の教育、学校と家庭と地域住民の連携協力などが新たに規定された。

基本目標 2

家庭と地域で
取り組む
人づくり

3 子育て支援

家庭教育への支援、子どもの健全育成、子どもの安全確保、子どもと地域社会との交流を行います。

基本目標 3

町民の感動と
意欲と行動を呼び起こす
文化・スポーツ環境づくり

4 歴史と文化の継承・創造

カルチャーセンターを中核とした文化活動の拡充、歴史・文化環境の整備を行います。

5 スポーツに親しむ環境

「フネッピーすこやかスポーツクラブ」の拡充、スポーツ環境の整備充実を行います。



5月24日に開催された御船中学校体育大会。今回で58回目を迎え、いつの時代も生徒たちの真剣な眼差しが光る（左）。幕末から明治・大正・昭和のはじめにかけて、御船川の豊かな清流、良質の御船米を生かして、県下第一の「酒造りの町」として栄えた御船。その御船川沿いに築かれた石垣に林立した白壁は、まさにこの町のシンボルであった。



夢と希望あふれる御船町

町では、「教育振興基本計画」の策定に先駆け、町の取り組みを住民全体で共有し合い実行していくために、住民にとって分かり易く、見やすいことを念頭においた「概要版」を作成しています。

近年、社会・環境の変化に対応して、人々の考えも多様化しています。しかし、根本的な教育は、今も昔も変わってはいません。「家庭で教える大事なこと、学校で教える大事なこと、地域で教える大事なこと」それぞれに大切な教育があります。保護者が、

教師が、地域が役割と責任を持つて、子どもを育んでいくことが、今求められています。町には、たくさんの方の史跡、名所があり、偉人もおられます。これらを子どもたちに伝え、ふるさと自慢の学習につないでいきたいと思っています。さらに、カルチャーセンター、スポーツセンター、恐竜博物館など素晴らしい施設があります。住民の方々がこれらの施設を活用した事業に参加し、楽しみを持つて活き活きと暮らしていける「夢と希望あふれる御船町」を目指します。

Interview

基本目標ごとに選任された3人の部長に今後の取り組みなどを聞いてみました。



高野 隆 学校教育部長
(御船中学校校長)

人と人のつながり

学園都市の実現に向けて必要なのは、家庭や地域、学校が一体となった教育環境づくりが重要です。そして、町内の園児から学生までが互いに関わり合いコミュニケーションを図ることで、人本来のつながりが芽生え、より豊かな感性を身につけることができます。そのような意味でも、昨年開催された「教育フォーラム」は、音楽を通じた交流でしたが、大変意義深いものだと考えます。こうした連携を含め、恐竜や先哲など地域資源を教育に盛り込みながら、現在の子どもたちに不足している礼儀やあいさつなどのマナー育成につながっていければと考えます。



西田 馨 社会教育部長
(小坂)

学校、家庭、地域の共鳴

学校での、あいさつ運動をはじめ、行政の防犯パトロール、校区の防犯ネットワーク団体などがそれぞれの分野で活発に子育て支援の活動をされています。

ただ、各団体での活動は素晴らしいのですが、それをまとめる指揮者がいない状況だったように思えます。そのような意味でも、今作成されている御船町教育基本計画こそが指揮者としての役割を果たすものだと思います。

これから、学校や家庭、地域がそれぞれの役割を果たしながら、トライアングルの音のように響きあう町となることを期待すると同時に、子育て支援への大きなきっかけになればと考えます。



吉田 誠地 生涯学習
生涯スポーツ振興部長 (木倉)

人材発掘と指導者バンク

町には、歴史や文化、伝統芸能など多くの遺産を擁しながら、十分に活かし活用されていません。また、郷土史家などの人材も不足していて、伝統芸能の後継者の育成を含めた幅広い人材の発掘と育成が必要と言えます。

スポーツ環境では、高齢化が進む中で、誰でも気軽に取り組める「ニュースポーツ」の普及と振興を図ります。そのため、体育振興会やフネッピースポーツクラブを中心とした環境づくりを進めていく一方、指導者の育成と充実を図る観点からも、指導者バンクを組織化して、平坦地と山間地のバランスあるスポーツの普及を目指します。